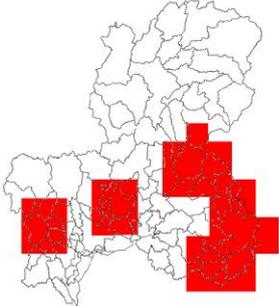


タチネズミガヤ		<i>Muhlenbergia hakonensis</i> (Hack.) Makino	情報不足
			イネ科
選定理由	自然度の高い温帯林中に生育する種で、岐阜県では生育地も個体数も少ない。		写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	根茎は長く伸びて地中を這う。稈は直立し、高さ40-80cm。葉身は長さ10-20cm、幅2-4mm。花序は直立、長さ6-15cm。小穂は長さ約4mm。護穎からは、長さ6-12mmの細い芒が直立して出る。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は8-9月。自然度の高い温帯林の林縁や林床に生育する種。		
分布状況	本州関東地方から九州に分布し、朝鮮、中国に分布する。岐阜県では、県南部に見られる。		
減少要因	林道拡張などによる環境の改変が減少の要因。花が小さく地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採などによって自生地が失われている可能性がある。		
保全対策	自然度の高い森林環境の維持などの保全。道路拡張などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 長野県植物誌 信濃毎日新聞社 1997		

文責: 福岡義洋